

みずほ銀行、メルカリと連携へ 新仲介で協業も視野

2021/11/16 23:00 日本経済新聞電子版 573文字

みずほ銀行とメルカリは、商品の発送業務や顧客基盤の共有などで連携する。第1弾としてみずほ銀行の店舗やATMの拠点に、メルカリで販売した商品を発送できる無人の投函（とうかん）ポスト「メルカリポスト」を設置する。銀行の拠点網でメルカリの発送の利便性を高める。将来的にはメルカリを利用する若年層に資産形成などの金融サービスを提供することなども検討する。

「メルカリポスト」はみずほの本社地下のATMに実験的に設置する。その後、順次設置場所を広げていく考えだ。若年層や女性の利用者が多いメルカリは、みずほと連携で高齢者との接点を増やす狙いがある。

メルカリは10月に物流サービスの新会社を設立し、発送拠点を拡充している。メルカリポストは現在の全国約1000カ所から2024年までに8000カ所に増やす方針を打ち出しており、これまでコンビニエンスストアや「ドコモショップ」などに設置してきた。

みずほ銀行にとってデジタルに強い若年層を中心としたメルカリの顧客基盤は魅力だ。銀行、証券、保険の金融商品をワンストップで提供することを目的に11月から始まった金融サービス仲介業での連携も視野に、資産形成など金融面での協業も検討する。みずほは全国約2000カ所に拠点を持つが、現金離れでATMの台数が減っており、メルカリとの連携は空きスペースの活用にもなるとみている。



許諾番号30097370 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.